

2013年度
関西学院大学ロースクール

C日程

一般入試（法学既修者）

民法問題

《9:30～11:30》

○開始の指示があるまで内容を見てはいけません。

【民法問題】

次の問いに答えなさい。

BはA所有の甲土地を、期間20年賃料月額5万円で借受け、しばらくして乙建物を建てた。税金対策のために、Bは末っ子Cの名義で乙建物の建築確認申請を行い、完成した建物の家屋課税台帳への登録もC名義でなした。

その後、建物の固定資産税を、未登記のままBがC名義で支払ってきたところ、Cが成人して起業をするにあたり必要に駆られて自己資金を得ようと思うに至り、自分の登録名義を利用して、Bの知らない間にC名義で建物の保存登記をした。

(1) その後Cは、C名義の登記を信頼した親戚Dに乙建物を1500万円で売り、売買を登記原因として登記名義を移転した。

その後、Bの相続が開始し、父Bの遺言によって、長男Eが父親の不動産を全て相続することとなったときに、Bの所有であったはずの乙建物がD名義になっていることに気が付いた。

それまで全くそのことを知らなかったEは、乙建物の自分の所有権に関して、Dに対してどのような主張ができるか。またそれに対して、DはEに対してどのような反論ができるか。理由及び根拠条文を明確にして論ぜよ。

(2) 甲土地の所有者Aは、Bに貸したはずの甲土地に、Bとは別人の登記名義の建物があることを初めて知り、自分が貸したのはBであることから大変驚いた。

AはBおよびCに対して、何に基づいてどのような主張ができるか。それに対して、BやCはどのような反論ができるか、理由及び根拠条文を明確にして論ぜよ。

なお、小問(1)の事実は起こっていないものとして答えよ。